

【報告事項】

松本市立病院分娩機能の廃止について

松本市立病院

1 趣旨

松本市立病院において4月に発生した医療事故を受け、分娩を休止して再開に向けた課題を分析・検討した結果、様々な課題を全て解決することは困難であり、地域の分娩件数が減少傾向にあることを踏まえると、将来的にも安全に分娩を継続することは難しいと判断し、分娩機能を廃止することといたしました。

2 分娩廃止を判断した理由

以前にも分娩の継続については検討がなされましたが、今回の分娩事故が起きたことで、従来はあまり認識されなかった産科診療体制の構造的な問題が顕在化しました。それは、助産師のスキルの低下や体制に見合った医師・助産師の確保といった医療安全上の課題であり、分娩廃止を決定した一番大きな理由は、将来的にこうした課題を解決することは極めて困難であると判断したことです。

また、病院経営の視点や松本地域の医療資源の現状等を踏まえると、地域の中での役割を見直す時期に来ていると判断したことも理由として挙げられます。

3 検討の過程

(1) 有識者等からの意見聴取

外部の有識者等から意見聴取を行いました。安全に分娩を提供するには、助産師のスキルの維持や医師・助産師の確保が必須であり、市立病院の分娩件数や地域の分娩件数の減少傾向を考慮すれば、集約化も検討すべきであるという見解で一致していました。

(2) 職員からの意見聴取

職員からは、分娩再開には、産科医・麻酔科医の確保、助産師の確保とリーダー育成、助産師の勤務環境の整備が必要である等の意見が出されました。

(3) 地域住民からの申入れ

ア 「松本市立病院の産婦人科を守る市民の会」から提出のあった産科の継続を求める申入書を受理しました。

イ 「松本市立病院の在り方を考える会」から提出のあった分娩機能継続を求める申入書を受理しました。

ウ 「松本市立病院の在り方を考える会」との懇談会を開催しました。

(4) 判断に至った考え方

- ア 安全な分娩を提供するためには、産科医や助産師、麻酔科医、小児科医の確保が不可欠であるが、現状では余裕を持った分娩体制を整えるだけのスタッフを確保できておらず、全国的な産科医、麻酔科医、助産師等の不足を踏まえると、今後も十分なスタッフを確保できる見込みが立ちません。
- イ 今後も地域における分娩件数の減少が見込まれる中で、市立病院においても分娩件数が100件を切ることが想定され、助産師のスキルやモチベーションの維持並びに病院経営の視点から見てもさらに厳しい状況となります。
- ウ 地域における安全な分娩体制を確保するため、全国的にも分娩医療機関の集約化が進んでいる。松本地域の分娩医療機関全体で見れば、市立病院の分娩件数を吸収できるだけの受入余力があり、かつ、それぞれの施設は市立病院から車で30分から1時間と近接していることから、特定の施設の負担増加や遠距離出産といった集約化の問題点は生じにくいと考えられます。
- エ これまでどおり出産前後の健診や相談支援等を通じて妊産婦をきめ細かくサポートしながら、近隣分娩機関と連携することで、地域として安全な周産期医療を維持することができます。

4 分娩廃止後の対応方針

今後は、分娩機能を除く産科医療については継続いたします。近隣の分娩医療機関との強固な連携のもと、これまでどおり妊娠検査をはじめ、妊娠初期～中期の健診、産後ケア、相談支援等を担うことで、地域で出産を予定される妊婦の方々を支援してまいります。

※ その他

分娩機能の廃止について、別紙のとおり当院ホームページに掲載しています。

分娩の廃止と今後の産科診療について

この度、当院では4月に発生した医療事故を受けて分娩を休止し、産科診療機能の見直しを検討してきましたが、分娩を再開するための課題を全て解決することは困難であり、地域の分娩件数が減少傾向にあることを踏まえると、将来的にも安全に分娩を継続することは難しいと判断し、分娩機能を廃止することといたしました。

分娩の継続には、安全と質を確保することが最低条件です。そのためには、産科だけでなく麻酔科、小児科を含めた医師及び助産師の確保が必須ですが、現状では体制に見合った医師・助産師を確保できておらず、全国的な医師・助産師不足を踏まえると、今後も十分なスタッフを確保できる見込みが立ちません。また、全国各地で分娩件数がさらに減少することが見込まれる中で、当院においても分娩件数が100件を下回ることが想定され、スタッフのスキルの維持が難しくなるだけでなく、病院経営の視点からも厳しい状況が予測されます。

一方、地域における安全な分娩体制を確保するため、全国的にも分娩医療機関の集約化が進んでいます。松本地域の分娩医療機関全体で見れば、当院の分娩件数を吸収できるだけの受入余力があるほか、それぞれの施設は当院から自動車ですぐ30分から1時間の範囲内であることから、他施設への過度な分娩の集中や、遠距離出産といった妊婦さんの負担増加の問題は生じにくいと考えられます。

こうした状況を踏まえて検討した結果、分娩を廃止するという結論に至りました。将来的に当院での分娩を検討されていた方、特に近隣にお住いの方々にはご不便をおかけし、心苦しく感じておりますが、何卒ご理解いただけますよう、お願い申し上げます。

今後は、分娩機能を除く産科医療については継続いたします。近隣の分娩医療機関との強固な連携のもと、当院は「産科かかりつけ医」として、これまでどおり妊娠検査をはじめ、妊娠初期～中期の健診、産後ケア、相談支援等を担うことで、地域で出産を予定される妊婦の方々を支援してまいります。

当院は、患者様の安心と安全を第一とした病院づくりに職員一丸となって励んでまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

松本市立病院

松本市病院事業管理者 北野 喜良
院長 佐藤 吉彦